

福島県農村地域振興セミナー2023を開催しました

令和5年11月13日（月）郡山市のビッグパレットふくしまをメイン会場に、県内4つのサテライト会場をつなぎ、「みんなで支え合う農村（むら）づくり」をテーマとした標記セミナーを開催しました。

来場者やオンライン参加も含め、363名の参加がありました。

参加いただいた皆様ありがとうございました。

<福島県多面的機能支払交付金 優良活動表彰>

はじめに、多面的機能支払交付金を用いて、地域の活性化や農業振興に資する優良な活動を行っている組織への表彰が行われました。

🏆 最優秀賞：旗宿結いの会（白河市）

🏆 優秀賞【福島民報社賞】：松倉地域保全会（矢吹町）

🏆 優秀賞【福島民友新聞社賞】：小松地区農地水路保全会（会津若松市）



優良活動表彰の受賞者の皆様

<優良活動組織による事例紹介>

発表者：旗宿結いの会 伊藤一伸 様

農家・非農家が一体となつての鳥獣害対策や農業用施設の点検、水路等の補修作業に取り組むとともに、令和元年東日本台風の際には農道復旧等の迅速な対応に当たったことなど、強固な組織体制を構築し、活動を行っている事例を紹介いただきました。



旗宿結いの会 伊藤様による事例紹介

<基調講演>「地域で楽しむ“むら”づくり～農村RMOをきっかけに～」

講師：NPO法人いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜千穂 様

地域コミュニティの弱体化や組織の消滅に直面する農村地域において、地域課題の解決に向けて継続して取り組むための「体制・仕組み・仕掛け」としての地域運営組織（RMO）の取組が全国で広がっています。地域運営には、まずは地域課題の優先事項を決めて「何をやるか」より「誰がやるか」「どうやるか」を決めること、地域の困りごとをみんなが我が事として「楽しみながら」解決に向けて活動していくことで住民自治につながっていくことなど、全国の事例なども交えて講演いただきました。



若菜氏による基調講演

＜施策紹介＞「農村RMO形成推進施策について」

講師：農林水産省東北農政局農村計画課 課長補佐 田村敏明 様

なぜ農村型地域運営組織（農村RMO）の形成が必要なのか、現状や背景を踏まえ、国における各種施策の紹介や活用事例について紹介いただきました。

そのうち、農林水産省の補助事業である農山漁村振興交付金（農村RMOモデル形成支援）については、①農用地保全、②地域資源活用、③生活支援の3つの取組を行おうとしている地域協議会に対し、将来ビジョン策定やビジョンに基づく実証事業に対する支援が受けられます。

＜事例紹介1：^{かまがふち}釜ヶ淵みらい協議会の取組（若手主体による地域活性化の実践）＞

講師：富山県 ^{かまがふち}釜ヶ淵みらい協議会 事務局長 村井一仁 様

立山町農林課 農村環境係長 大崎喜孝 様

小学校の統合問題を契機に、「地域を将来も存続させるために何とかしたい」との思いから、地域の話合いを重ね、移住者からの提案を機に遊休農地において低コスト管理（放牧・蜜源作物・ハーブ）を開始。国の農山漁村振興交付金の最適土地利用対策の取組みから農村RMOに発展し、地域の拠点「^{かまのくら}釜ノ蔵」やコミュニティガーデン、自然栽培米、農家民泊など多彩な取り組みを展開されていることについて紹介いただきました。



富山県立山町からオンラインで事例紹介

<事例紹介2：地域運営組織による農業を起点として地域づくり>

講師：猪苗代町 ^{みねゆいのむら}見祢結乃村未来協議会 事務局長 小板橋敏弘 様

集落衰退の不安から集落全戸全住民参加の集落営農組織を設立。組織運営には収益が必要となるため、米の販売から始まり農家レストラン経営や野菜の直売、グリーンツーリズム受入など組織の改編等を行いながら活動を徐々に拡大。現在は買い物・福祉ワゴン、独居・高齢世帯の見守りシステムの試験運用を実施しており、今後も集落維持・活性化と住民の幸福につなげるための取組をさらに大きく展開していく構想であることを紹介いただきました。



会津いなわしろ見祢・集落結乃村の事例紹介

<まとめ>

本セミナーの内容について、参加者の皆様がそれぞれ地域に持ち帰っていただき、地域課題の解決に向けた検討や実践につながっていくことが期待されます。